

セットアップ・マニュアル

UPS用オプションアクセサリ

Advanced NW board

第1.0版

目次

1 . 梱包開封時の確認	1
2 . 本ボードの保管と設置と注意事項	2
3 . 本ボードの名称と働き	3
3 - 2 . 前面パネルの名称と働き	4
4 . CONFIG スイッチの説明	5
5 . 本ボードの設置	7
6 . ソフトウェア初期値	8
7 . 本ボードの「初期セットアップ」	10
8 . 本ボードの「基本機能のセットアップ」	15
9 . スクリプト実行の対象となる「システム側」のセットアップ	35
10 . ハードウェアの仕様一覧	50

1. 梱包開封時の確認

(1) 梱包箱の確認

梱包箱に損傷がないか確認してください。

万一、損傷があった場合は直ちにその旨を運送会社に申し出てください。

(2) 梱包内容の確認

装置を設置する前に以下のものが揃っているかを確認してください。万一不足しているものがある場合は、販売店へご連絡ください。



名称	数量
Advanced NW board	1
CD-ROM (本ボードの下に同梱されています) ユーザーズ・マニュアル Windows 環境セットアッププログラム (WinSetup.exe) MIB ファイル サンプルプログラム (ftp、socket)	1
セットアップ・マニュアル (本誌)	1
始めてご使用になる前に	1
マニュアルに記述されていない内容について	1
保証書	1

(3) 外観の確認

製品や付属品の外観に損傷や変形がないことを確認してください。

2．本ボードの保管と設置と注意事項

2 - 1．保管

- (1) 本ボードを単体で保管する場合は、本ボードの基板に有る、ボタン電池用の「ショートピン」をオープン側 ( → ) へセットしてください。
詳細は「3-1．基板の名称と働き」をご確認ください。
- (2) 本ボードを単体で保管する場合は、出荷の際に入っていた袋に入れて保管してください。
本ボードの裏面に電池の端子が出ておりますので、金属板やアルミ箔、電導スポンジ等の上に置いたり包んだりしないでください。電池がショートし、ボードの故障や発煙等が発生する可能性があります。

2 - 2．設置条件

設置は快適な場所をお選びください。とくに以下のような場所は、お避けください。

- (1) 直射日光の当たる場所
- (2) 高温・多湿の所
- (3) 強い振動や衝撃のある所
- (4) 塩分や腐食性ガスの発生する所
- (5) 傾いている (水平でない) 所
- (6) 無線機の近く (無線機にノイズが混入する場合があります。)
- (7) 埃の多い場所
- (8) 狭い場所

また、加湿器をご使用の場合は超音波式加湿器以外の加湿器をご使用ください。

2 - 3．注意事項

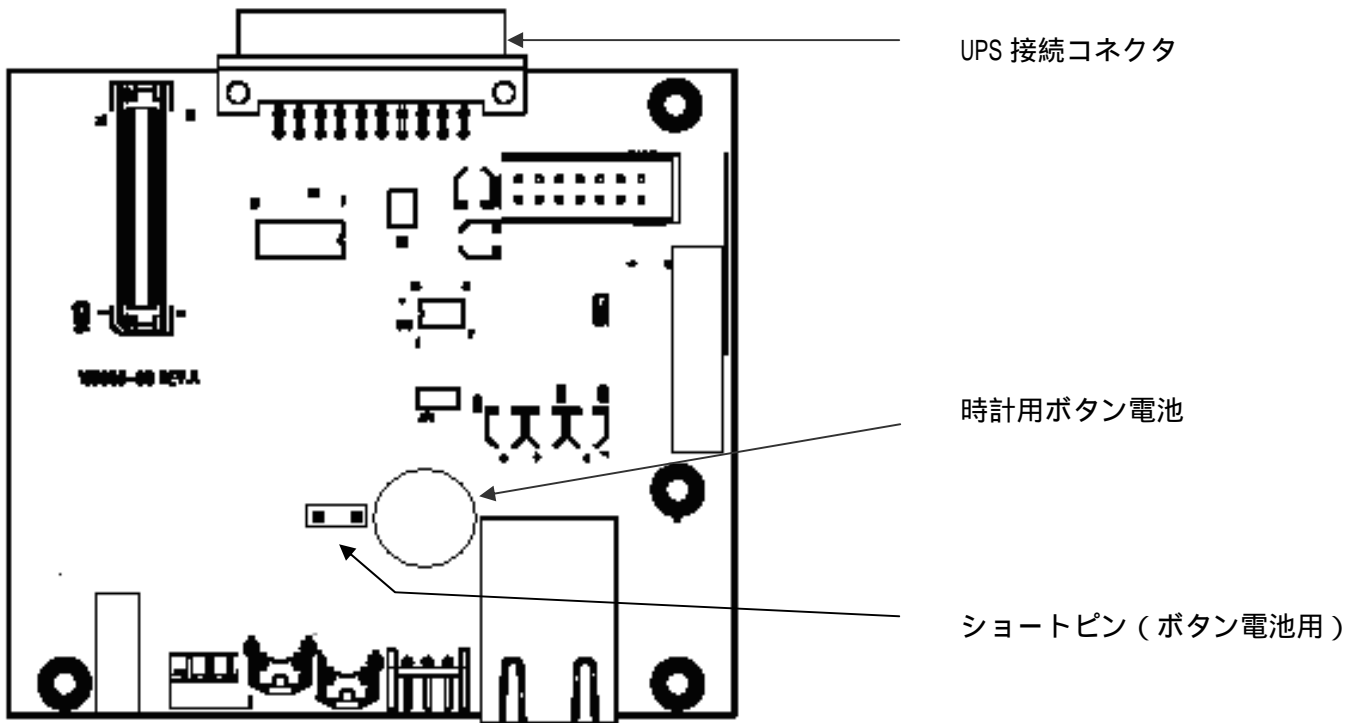
次の事項はお避けください。

- (1) 本ボードの設置 (UPS 本体への抜き差し) は、UPS が通電中 (UPS へ電源供給されている状態) に行なわないでください。抜き差しされる場合は、必ず、UPS を完全に停止した状態 (UPS のオペレーションスイッチを「OFF」し、UPS の電源コンセントを抜いた状態) で行なってください。
UPS が通電中に抜き差しされると、本ボード及び UPS 本体の故障、出力の停止などが発生する可能性があります。

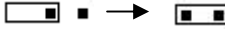
3 . 本ボードの名称と働き

3 - 1 . 基板の名称と働き

(1) 各部の名称と位置

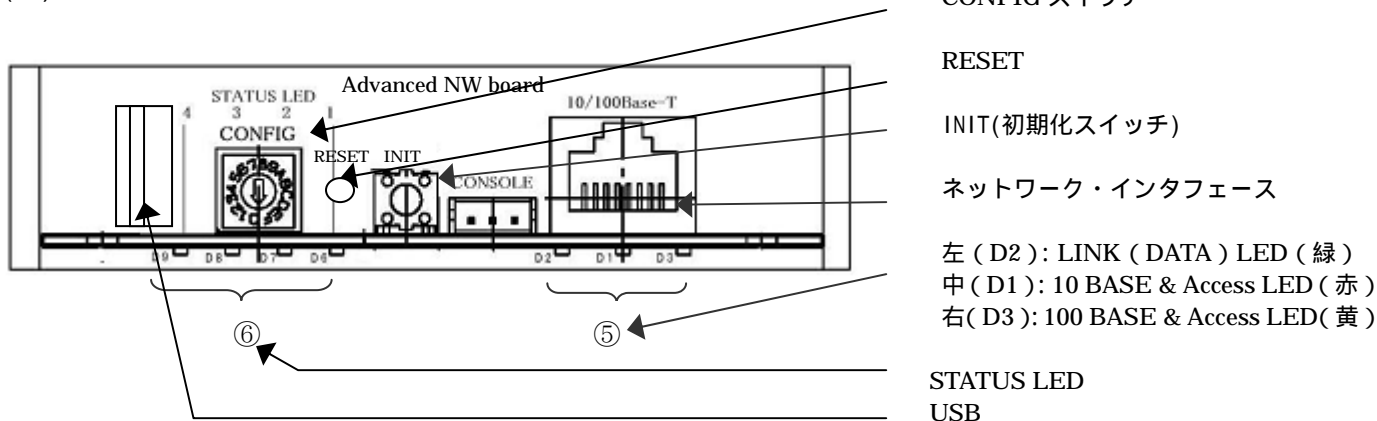


(2) 各部の名称と働き

番号	名称	機能
	UPS 接続コネクタ	UPS 本体と通信する為の接続コネクタです。
	時計用ボタン電池	<p>本ボードの時計用ボタン電池です。</p> <p>電池の寿命は、この電池のみで時計用 IC を駆動し、気温 25 度の環境にて約 4 年です。</p> <p>電池は、本ボードを UPS に実装し、UPS に電源が供給(オペレーションスイッチの ON/OFF には無関係です)されている状態では、電池を消耗しません。その場合の寿命は約 10 年です。</p> <p>電池が寿命となった場合は市販の「CR1220」をご使用ください。</p>
	ショートピン (ボタン電池用)	<p>本ボードの時計用ボタン電池を使用する為のショートピンです。</p> <p>本ボードを UPS へ設置される前にショート側にセットしてください。</p> <p></p>

3-2 . 前面パネルの名称と働き

(1) 各部の名称と位置



(2) 各部の名称と働き

番号	名称	機能
	CONFIG スイッチ	本ボードの「パラメータ」を「初期化」する為の16ポジションロータリー型スイッチです。
	RESET ボタン	本ボードをリセット(再起動)させる為の操作ボタンです。
	INIT	本ボードの「パラメータ」を「初期化」する為の操作ボタンです。 操作方法は、「4-2. 本ボードの「初期化」操作」をご確認ください。
	ネットワーク・インタフェース	ネットワーク(10BASE-T/100BASE-TX)のケーブルを接続する場所です。
	() 左: LINK (DATA) () 中: 10 BASE LED () 右: 100 BASE LED	() LINK (DATA) LED (緑) データの入出力処理を行っている際に点滅します。 () 10 BASE LED (赤) 本ボードへ「10 Mbps」にてアクセスされた時に点灯(点滅)します。 () 100 BASE LED (黄) 本ボードへ「100 Mbps」にてアクセスされた時に点灯(点滅)します。
	STATUS LED	本ボードの動作状態を示します。 LEDの状態 : 消灯、 : 点灯、 : 点滅 : モニタープログラム起動完了 Linux カーネル起動開始 : Linux カーネル起動完了 Linux 用アプリケーション初期化開始 : Linux 用アプリケーション初期化完了 UPS 装置との通信開始 : UPS 装置との通信確立 本ボード用アプリケーション初期化開始 : 初期化完了。UPS の監視開始。(正常動作中)
	USB ポート	USB メモリを接続します。電流容量は150mA(USBの規格は500mA)しかありませんので、150mA以上のものは絶対に接続しないでください。ボードの故障、UPS本体の一時出力停止や故障になることがあります

4 . CONFIG スイッチの説明

CONFIG スイッチによる処理内容をご説明します。

4 - 1 . 「CONFIG 」スイッチの動作モード

CONFIG スイッチ (SW)	機能	内容
SW 0	通常動作モード	本ボードは、「SW 0」の状態 で起動してください。 「UPS」の監視を行います。 尚、本ボードを「SW 0」以外 の状態 で起動された場合は スイッチを「SW 0」へ合わせ、「RESET」ボタンを押してください。
SW 0 ~ SW 3	パラメータの初期化	本ボードが起動した後に、本ボードの「パラメータ」の初期化を実行する時に使用します。 「CONFIG」スイッチを各スイッチ (SW 0 ~ SW 3) へ合わせ、処理を実行する事で、初期化する内容を変える事ができます。 詳しくは「4-2. 本ボードの「初期化」操作」をご参照ください。
SW 4 ~ SW F	予約	設定しないでください。

CONFIG スイッチによる「動作モードの設定」は、本ボードの「電源投入時」または「RESET」ボタンの実行にて有効になります。

4 - 2 . 本ボードの「初期化」操作

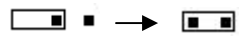
CONFIG スイッチの各ダイヤルに合わせ、その後、INIT スイッチを押し続ける時間の間隔により「初期化」処理の内容が変化します。20 秒を越えた場合は 0 秒に戻り、続きを繰り返します。一旦離して、5 秒以内にもう一度押さない場合はスイッチを押す前の標準動作に戻ります。

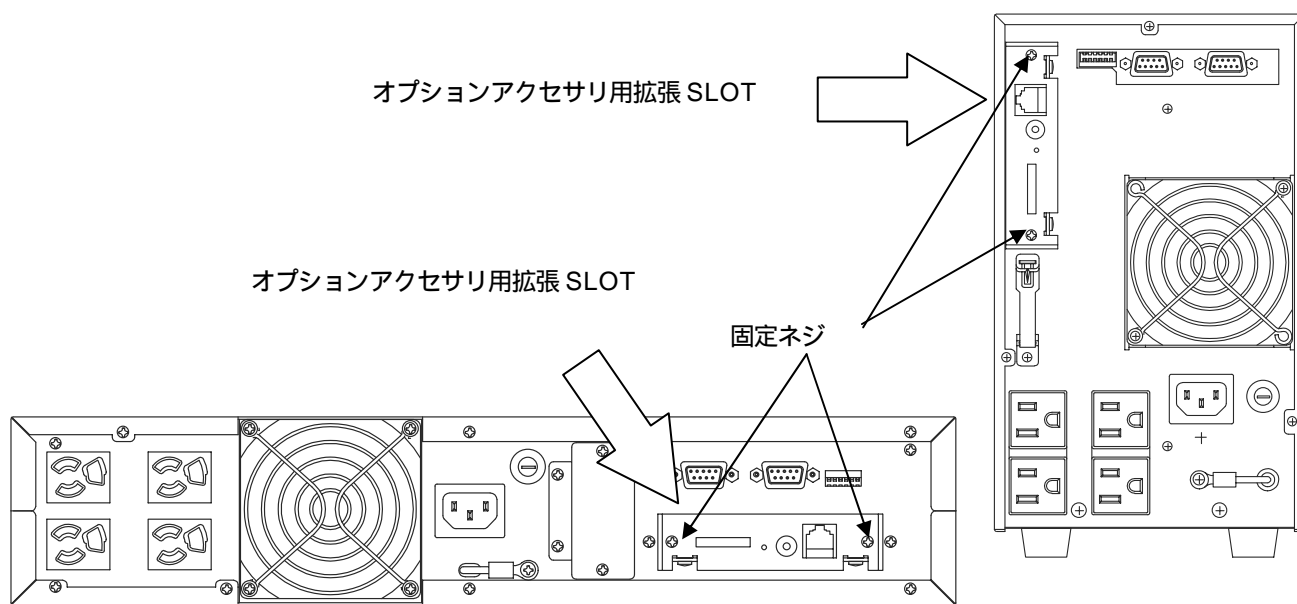
表 4-2-1 CONFIG スイッチの「初期化」表

CONFIG スイッチ (SW) の位置	INIT - SW の押し時間 0 ~ 5 秒 (LED 4 点滅)	INIT - SW の押し時間 5 ~ 10 秒 (LED 4+3 点滅)	INIT - SW の押し時間 10 ~ 15 秒 (LED 4+3+2 点滅)	INIT - SW の押し時間 15 ~ 20 秒 (LED 4+3+2+1 点滅)
SW 0	基本的には処理は実行されません。 USB メモリが接続され、そのルートディレクトリにアップデートファイルがある場合はアップデートを実行します	この状態で、スイッチを一度離し、5 秒以内に再度スイッチを短く押した場合は、 ソフトリセット (プログラムの再起動)を実行します。	この状態で、スイッチを一度離し、5 秒以内に再度スイッチを短く押した場合は、本ボードの「 IP アドレス 」を 初期値 (192.168.0.10)に戻します。	この状態で、スイッチを一度離し、5 秒以内に再度スイッチを短く押した場合は、本ボードの「 パラメータ 」「 パスワード 」「 ログ 」を 初期化 します。
SW 1	処理なし。	これにより、「 パラメータ 」と「 ログ 」の 保存も 実行します。	この状態で、スイッチを一度離し、5 秒以内に再度スイッチを短く押した場合は、本ボードの「 全アカウント 」の「 パスワード 」を 初期値 (upsuser、upsview)に戻します。	<補足> 本ボードの「再起動回数」「ROM への書き込み回数」は残します。
SW 2			この状態で、スイッチを一度離し、5 秒以内に再度スイッチを短く押した場合は、本ボードの「 IP アクセス制限 」を 初期値 (無効)に戻します。 この機能は今後の対応予定です。	
SW 3			処理なし。	この状態で、スイッチを一度離し、5 秒以内に再度スイッチを短く押した場合は、本ボードの「 全情報 」を「 完全 」に 初期化 します。

「SW0」 ~ 「SW3」以外は設定しないでください。

5 . 本ボードの設置

- (1) 本ボードを設置する前に、本ボードの基板に有る、ボタン電池用の「ショートピン」をショート側 ()へセットしてください。詳細は「3-1. 基板の名称と働き」をご確認ください。
- (2) 本ボードを設置する UPS に接続されているシステム装置の電源を、全て停止してください。
- (3) 本ボードを設置する UPS を停止し、入力ケーブルを抜いて UPS を完全に停止させてください。
UPS の停止オペレーションは、各 UPS の「取扱説明書」をご確認ください。
- (4) UPS 本体にある「オプション・アクセサリ」用の「拡張 SLOT」に、本ボードを挿入してください。
その際、挿入する方向や向きに注意して、慎重に挿入してください。
本ボードの挿入後は、「SLOT カバー」を固定していたネジで、本ボードを固定してください。



- (5) 次に、「LAN ケーブル」(10BASE-T または 100BASE-TX) をご用意ください。
本ボードと「ハブ」で接続する場合は「ストレートケーブル」を、コンピュータと直接接続する場合は「クロスケーブル」をご用意ください。
- (6) ご用意いただいた「LAN ケーブル」を、本ボードの「LAN ケーブル」差込口へ接続してください。
本ボードへ差し込みました「LAN ケーブル」の反対側を接続機器へ接続してください。
- (7) UPS の入力ケーブルをコンセントに接続し、UPS を起動してください。
UPS の起動オペレーションは、各 UPS の「取扱説明書」をご確認ください。
- (8) 本ボードの「Link - L ED」が点灯し、本ボードとネットワーク機器とのリンクが確立されているか確認してください。
「Link - L ED」が点灯していない場合はケーブルの接続、使用しているケーブルの種類が間違っていないか UPS 及び、ネットワーク機器の電源が入っているか、再度ご確認ください。

6 . ソフトウェア初期値

(1) 工場出荷時設定

項番		項目名	初期値
1	シャットダウン設定	停電確認時間(ディレイ 1)	180 秒
2		停電シャットダウン告知時間(ディレイ 2)	10 秒
3		停電シャットダウン待機時間(ディレイ 3)	60 秒
4		UPS 停止時間(ディレイ 4)	1 分
5		指示シャットダウン告知時間(ディレイ 2)	10 秒
6		指示シャットダウン待機時間(ディレイ 3)	60 秒
7		UPS 停止時間(ディレイ 4)	1 分
8		停電回復後の UPS 再起動動作	起動
9		復電後起動遅延時間	0 秒
10		シャットダウン実行	なし
11		-	-
12	スケジュール設定	定時設定	常時動作
		指定日設定	設定なし
13	イベント設定	各イベント実行	なし
14	スクリプト設定	各 64 個のスクリプト設定	なし
15	ネットワーク	ボード設定：IP アドレス	192.168. 0.10
16		ボード設定：サブネットマスク	255.255.255.0
17		ボード設定：デフォルトゲートウェイ	0.0.0.0
18		ボード設定：ソケットサーバ ポート番号	8192
19		メール設定：送信メールサーバアドレス	0.0.0.0
20		メール設定：送信先 4 ヶ所	なし
21		メール設定：送信者名	UPS
22		メール設定：件名	空白(UPS イベント発生)
23		メール設定：認証方法	認証無し
24		メール設定：POP3 サーバアドレス (POP3 認証時に必要)	0.0.0.0
25		メール設定：ユーザ名 (認証時に必要)	空白
26		メール設定：パスワード (認証時に必要)	空白
27		Windows Message 設定：送信先 4 ヶ所	0.0.0.0
28		SNMP 設定：コミュニティ名	public
29		SNMP 設定：送信漢字コード	Shift-JIS
30		SNMP 設定：MIB 設定	JEMA
31		SNMP 設定：Jema1.6.1、1.6.3 正常時返答値	旧ボードと同じ“0”を返す
32		SNMP 設定：トラップ送信先アドレス 8 ヶ所	0.0.0.0
33		-	-
34		時刻設定	本ボード時刻
35	NTP サーバアドレス		0.0.0.0
36	パスワード管理	ユーザ名 upsuser のパスワード	upsuser
37		ユーザ名 upsview のパスワード	upsview
38		-	-

3 9	動作モード	FTP サーバ機能 (UPS 制御用)	起動
4 0		Socket サーバ機能 (UPS 制御用)	起動
4 1		SNMP クライアント機能	起動
4 2		ホスト監視機能	起動
4 3		Ftpd 機能 (ファイル転送用)	起動
4 4		管理機能	起動
4 5		Telnet サーバ機能	起動
4 6		Http サーバ機能	起動
4 7	装置情報	管理者	agent@snmp-agent (半角60文字以内 全角30文字)
4 8		接続装置	UPS (半角 16 文字以内、全角 8 文字)
4 9		設置場所	office (半角 60 文字以内、全角 30 文字)
5 0		コメント	なし (半角 10 文字以内、全角 5 文字)
5 1		バッテリー交換実施日	00.01.01
5 2		バッテリー交換実施回数	0
5 3		ブザー鳴動	全ての異常、警告条件の鳴動
5 4	ログ設定	メール自動送信	送信しない
5 5		syslog 送信	送信しない
5 6		メール送信時のメールアドレス	空白
5 7		メール送信時の件名	空白
5 8		syslog の送信先 IP アドレス	0.0.0.0
5 9		syslog 送信時の漢字フォーマット	EUC
6 0		大きいメッセージの分割	分割しない

7. 本ボードの「初期セットアップ」

- (1) 「初期セットアップ」では、本ボードを、お客様のネットワーク環境でご使用いただくための初期設定を行います。
- (2) 本ボードの「初期セットアップ」は、ネットワークを通じて設定することができます。
- (3) ネットワークを通じて設定を行うには、ネットワーク機能が使用できるコンピュータ（設定用コンピュータ）を1台ご用意ください。

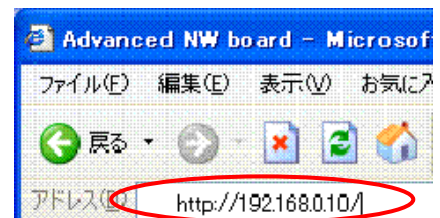
その他、本ボードの機能を使用する為のセットアップについては、次の「**8. 基本機能のセットアップ**」にてご説明致します。

7-1. 本ボードとのネットワーク接続

- (1) UPS に設置された本ボードと、「設定用コンピュータ」を、「HUB」を介して LAN ケーブルにて接続されるか、LAN ケーブルの「クロスケーブル」にて直接接続してください。
- (2) 次に、設定用コンピュータから、本ボード（192.168.0.10）へネットワーク接続する為に、「設定用コンピュータ」の「IP アドレス」を、クラス C のセグメント内（192.168.0.1 ~ 9、192.168.0.11 ~ 192.168.0.254）に設定変更してください。

7-2. 本ボードへのログイン

- (1) 「設定用コンピュータ」上で、ウェブブラウザを起動します。
ブラウザの「接続」設定は、「プロキシ」接続を「無効」に設定にしてください。
- (2) 次に、ブラウザのアドレスバーに、「http://本ボードの IP アドレス/」を入力し、Enter を押してください。
(例： http://192.168.0.10/) (暗号化なし)



- (3) 本ボードへネットワーク接続しますと、専用のログイン画面が表示されます。
ここで、「ユーザ名」および「パスワード」を入力し、ログインボタンを押してください。
(工場出荷時はユーザ名：upsuser、パスワード：upsuserです)

(4) 本ボードへの「ログイン」が成功しますと、下記、UPS の情報表示画面が表示されます。



※ 表示される値には、10%前後の誤差があります。

※ 短い間隔にて変化した値は、更新されない場合があります。

7-3 . 本ボードの初期設定の変更

- ・この「初期セットアップ」では、本ボードを、お客様のネットワーク環境でご使用いただく為に必要な「初期設定」を行います。設定項目は下記になります。

設定項目

項番	項目名
7-3-1	本ボードの「ネットワーク」の設定
7-3-2	本ボードの「時計」の設定
7-3-3	本ボードの「再起動」

その他、本ボードの機能を使用する為のセットアップについては、次の「8 . 基本機能のセットアップ」にてご説明致します。

ブラウザからの設定中は、「Enter」キーを使用しないでください。ブラウザの仕様により動作が異なります。

ブラウザ画面を同時に複数表示させた場合、一つのブラウザで「ログアウト」した後に、その他のブラウザが異常終了する事があります。これはブラウザの問題です。本ボードの機能とは関係ありません。

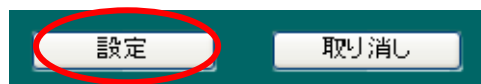
7-3-1 . 本ボードの「ネットワーク」の設定

・ここでは、お客様のネットワーク環境で使用する為のネットワークの設定を行います。

- (1) 画面左側のメニューより、「基本設定メニュー」の中の「ネットワーク」を選択してください。
- (2) 表示された画面の「ネットワーク設定」部分に、本ボード用にご用意された、ネットワークアドレス（IP アドレス）を入力してください。

ネットワーク設定	
IPアドレス	192.1.2.201
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	192.1.2.254
1'st DNSサーバーアドレス	0.0.0.0
2'nd DNSサーバーアドレス	0.0.0.0
HTTPポート番号	80
SOCKETサーバ・ポート番号	8192

- (3) ネットワークアドレスを入力されましたら、設定画面の最下位に移動していただき、「設定」ボタンを実行してください。



7-3-2 . 本ボードの「時計」の設定

・ここでは、本ボードを、お客様のネットワーク環境で使用する前に、本ボードの「時計」を合わせます。

- (1) 画面左側のメニューより、「基本設定メニュー」の中の「時計設定」を選択してください。
- (2) 表示された画面には、現在、設定変更に使用しています、「設定用コンピュータ」のシステム時刻が表示されます。
- (3) 「時計」の設定方法には、2種類の方法があります。
 - 「設定用コンピュータ」の「システム時刻」を利用する方法
 - 「NTP サーバ」を利用する方法

設定方法は下記になります。

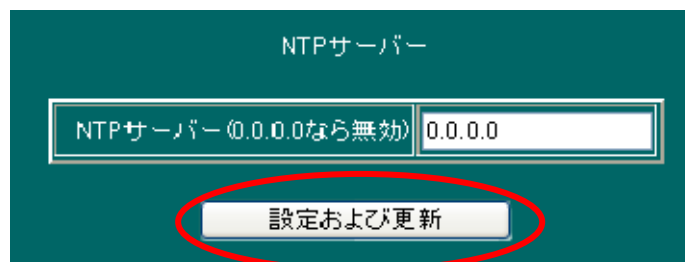
(3)-1 . 「設定用コンピュータ」の「システム時刻」を利用する場合

- ・「設定」ボタンを実行し、表示されている「時刻」をそのままセットします。
- または、「再表示」ボタンを一度実行した後に「設定」ボタンを実行し、より現在に近い「時刻」をセットします。



(3)-2 . 「NTP サーバ」を利用する場合

- ・「NTP サーバ」の「IP アドレス」を入力し、「設定および更新」ボタンを実行し、「時刻」をセットします。



※ 本ボードの「時計」が正しく設定されていない場合、メールサーバ等から受信拒否される場合があります。

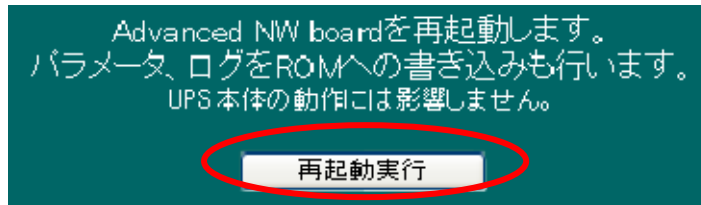
7-3-3 . 本ボードの「再起動」

・「初期セットアップ」が終わりましたら、一度、本ボードを再起動してください。

(1) 画面左側のメニューより、「メンテナンスメニュー」の中の「BOARD 再起動 / パラメータ保存 / 初期化」を選択してください。

(2) 表示された画面より、「再起動実行」ボタンを実行してください。

再起動には、約70秒弱かかります。



再起動後、本ボードの「IP アドレス」を変更された場合は、情報が表示されなくなります。

この現象は、本ボードと「設定用コンピュータ」のネットワークアドレスが異なるため発生します。

本ボードへ再接続される場合は、「設定用コンピュータ」の「IP アドレス」を、本ボードのネットワークアドレスに合わせてください。

8 . 本ボードの「基本機能のセットアップ」

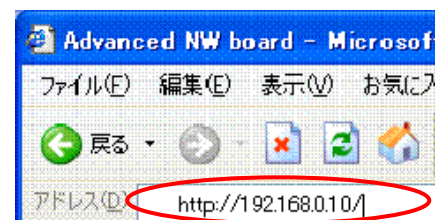
- (1) 「基本機能のセットアップ」では、前項目の「7 . 初期セットアップ」に続き、本ボードの機能を使用する為の「基本設定」を行います。
- (2) 「基本機能のセットアップ」を行う為に、ネットワーク機能が使用できるコンピュータ（設定用コンピュータ）を1台ご用意ください。

8-1 . 本ボードとのネットワーク接続

- (1) UPS に設置された本ボードと、「設定用コンピュータ」を、「HUB」を介してLAN ケーブルにて接続されるか、LAN ケーブルの「クロスケーブル」にて直接接続してください。
- (2) 次に、設定用コンピュータから、本ボードへネットワーク接続する為に、「設定用コンピュータ」の「IP アドレス」を、本ボードのネットワークアドレスに合わせて設定変更してください。

8-2 . 本ボードへのログイン

- (1) 「設定用コンピュータ」上で、ウェブブラウザを起動します。
ブラウザの「接続」設定は、「プロキシ」接続を「無効」に設定にしてください。
- (2) 次に、ブラウザのアドレスバーに、「[http://本ボードに設定した IP アドレス/](http://本ボードに設定したIPアドレス/)」を入力し、Enter を押してください。
(例 : <http://192.168.0.10/>)(暗号化なし)



- (3) 本ボードへネットワーク接続しますと、専用のログイン画面が表示されます。
ここで、「ユーザ名」および「パスワード」を入力し、ログインボタンを押してください。
(工場出荷時はユーザ名 : upsuser、パスワード : upsuser です)

- (4) 本ボードへの「ログイン」が成功しますと、下記、UPS の情報表示画面が表示されます。

8-3 . 本ボードの設定変更

- ・この「**基本機能のセットアップ**」では、本ボードの基本的な機能をご利用いただく為の設定を行います。設定項目は下記になります。

設定項目

項番	項目名
8-3-1	本ボードの「 ログイン・パスワード 」の設定 <u>初期設定のままご使用される場合は、設定は「不要」です。</u>
8-3-2	本ボードの「 装置情報 」の設定 <u>初期設定のままご使用される場合は、設定は「不要」です。</u>
8-3-3	システム停止（シャットダウン）までの「 待機時間 」の設定 <u>システム（UPSを含む）を停止させる機能を使用されない場合は、設定は「不要」です。</u>
8-3-4	イベント発生時の「 メール送信 」の設定 <u>メール送信機能を使用されない場合は、設定は「不要」です。</u>
8-3-5	イベント発生時の「 Windows メッセージ送信先 」の設定 <u>Windows メッセージの送信機能を使用されない場合は、設定は「不要」です。</u>
8-3-6	本ボードの「 SNMP 」の設定 <u>SNMP 機能を使用されない場合は、設定は「不要」です。</u>
8-3-7	本ボードの「 SNMP トラップ送信先 」の設定 <u>SNMP 機能を使用されない場合は、設定は「不要」です。</u>
8-3-8	イベント発生時に実行させる「 スクリプト 」の設定 <u>スクリプトの実行機能を使用されない場合は、設定は「不要」です。</u>
8-3-9	発生したイベントに対応させる「 実行処理 」の設定 <u>イベント毎の実行処理を指定されない場合は、設定は「不要」です。</u>
8-3-10	本ボードの「 再起動 」 <u>設定を変更された場合は、最後に「再起動」を実行してください。</u>

その他の機能または、各機能の詳細については、別にご用意しております、別紙「**ユーザーズ・マニュアル**」を、ご確認ください。（「ユーザーズ・マニュアル」は「CD-ROM」にコピーしております。）

ブラウザからの設定中は、「Enter」キーを使用しないでください。ブラウザの仕様により動作が異なります。

ブラウザ画面を同時に複数表示させた場合、一つのブラウザで「ログアウト」した後に、その他のブラウザが異常終了する事があります。これはブラウザの問題です。本ボードの機能とは関係ありません。

8-3-1. 本ボードの「ログイン・パスワード」設定

・ここでは、本ボードへネットワーク接続（ブラウザ、Telnet にて）した時の、ログイン・パスワードの変更を行います。

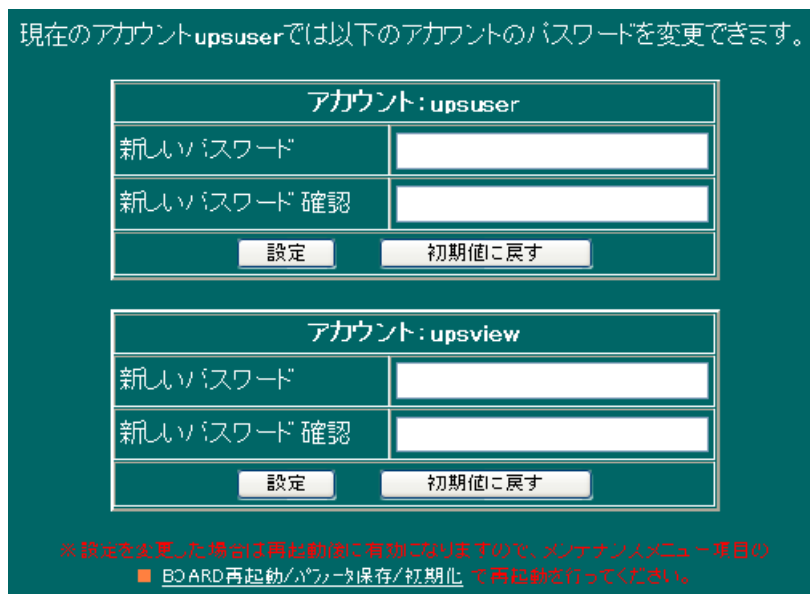
(1) 画面左側のメニューより、「基本設定メニュー」の中の「パスワード管理」を選択してください。

(2) 表示された画面には、2種類のログイン・アカウント用の「パスワード」変更項目があります。

本ボードには、2種類のログイン・アカウントをご用意しております。

2種類のログイン・アカウントは、下記の内容にて権限が異なります。

アカウント名	パスワード（初期値）	権限
upsuser	upsuser	①本ボードの情報「参照」 ②本ボードの設定「変更」 ③本ボードの機能「実行」
upsview	upsview	①本ボードの情報「参照」



(3) パスワードを変更される場合は、ログイン・アカウントごとに、「設定」ボタンを実行してください。

8-3-2 . 本ボードの「装置情報」設定

- ・ここでは、本ボードが設置されている UPS へ、「装置情報」の設定を行います。
- (1) 画面左側のメニューより、「メンテナンスメニュー」の中の「装置情報」を選択してください。
- (2) 表示された画面では、UPS に接続されている「接続装置」の情報や、UPS の設置されている場所などの情報を、UPS へ書き込む事ができます。必要な情報を入力してください。
- (3) 必要な情報を入力しましたら、「設定」ボタンを実行してください。

管理者(半角60文字、全角30文字以内)	agent@snmp-agent
接続装置(半角10文字、全角6文字以内)	Pc134
設置場所(半角60文字、全角30文字以内)	office
物理アドレス	00:0E:FF:F3:00:84
コメント(半角10文字、全角6文字以内)	Web118
バッテリー交換実施日(YYMMDD)	08.09.32
バッテリー交換実施回数	3
定格出力容量 (W)	700.0 W
ブザー鳴動	全ての異常、警告条件で鳴動
製造番号	000002

※ 設定を変更した場合はメンテナンスメニュー項目の
■ BOARD再起動/パラメータ保存/初期化 で再起動を行ってください。

設定 取り消し

設定した「接続装置」「設置場所」は、本ボードの「現在情報」に表示されます。
ここで設定した内容は、本ボードが設置されている「UPS」本体へ書き込まれます。

現在情報	
■ UPS 型名:	UPS1010HP
■ IPアドレス:	192.1.2.201
■ 接続装置:	Pc134
■ 設置場所:	office
■ ホットIP:	192.1.2.133

8-3-3 . システム停止 (シャットダウン) までの「待機時間」設定

・ここでは、本ボードが設置されている UPS に接続されているシステム (またはシステム機器) を自動的に停止させるまでの「時間」の設定を行います。

- (1) 画面左側のメニューより、「UPS メニュー」の中の「シャットダウン設定」を選択してください。
- (2) 表示された画面では、UPS に接続されているシステムを停止するまでの時間を、「停電時」と「停電以外」の2種類の条件にて設定することができます。

項目	停電時	停電以外
停電確認時間(ディレイ1)	180 秒	—
シャットダウン告知時間(ディレイ2)	10 秒	10 秒
シャットダウン処理時間(ディレイ3)	60 秒	60 秒
UPS 停止時間(ディレイ4)	1 分	1 分
停電回復後のUPS再起動動作	起動	—
復電後起動遅延時間	0 秒	—
シャットダウン実行	<input type="checkbox"/>	—

(3) 各項目の内容は下記になります。

<タイトル>	
タイトル名	タイトルの説明
停電時	UPS に供給されている電源が、「停電」状態になった場合に処理する停止時間になります。
停電以外	「停電」状態以外の、「スケジュール」設定や、本ボードのブラウザ画面から「シャットダウン」操作した場合などに処理する停止時間になります。

<設定時間>		
項目名	経過	項目の説明
停電確認時間 (ディレイ 1)	↓	停電「発生」から、停電「回復」するまでの待機時間になります。 ここで設定された時間内に「停電」が「回復」した場合は、システムの停止処理は実行されません。 但し、この時間内に UPS のバッテリー容量が低下した場合は、この時間を途中で省略し、次の「シャットダウン告知時間」へ進み、システム停止処理を進めます。(入力範囲: 0 ~ 99999)
シャットダウン告知時間 (ディレイ 2)	↓	システムのシャットダウンを開始する前の待機時間になります。 (入力範囲: 0 ~ 99999)
シャットダウン処理時間 (ディレイ 3)	↓	システムのシャットダウンを開始します。 シャットダウンに必要な時間を入力してください。 (入力範囲: 0 ~ 99999)
UPS 停止時間 (ディレイ 4)	↓	UPS を停止させるまでの待機時間になります。 (入力範囲: 1 ~ 99)

＜停電によるシステム停止後の動作＞	
項目名	項目の説明
停電回復後のUPS再起動動作	<p>「停電」により、本ボードにてシステムを停止した後、「停電回復」した時のUPSの動作を設定します。</p> <p>①「起動」：UPSからの電源供給を開始する。</p> <p>②「停止」：UPSからの電源供給を開始しない。</p>
復電後起動遅延時間	<p>「停電」により、本ボードにてシステムを停止した後、「停電回復」した時に、UPSからの電源供給を遅らせる時間になります。</p>

＜停電によるシステム停止の許可＞	
項目名	項目の説明
シャットダウン実行	<p>「停電」発生時に、本ボードによりシステム停止処理を行う為の設定です。</p> <p>①「チェックあり」：システム停止処理を行う。</p> <p>②「チェックなし」：システム停止処理を行いません。</p> <p>※「チェックなし」の場合、「停電時」側に設定した「時間設定」は処理されません。</p>

(4) 必要な情報を入力し、「設定」ボタンを実行してください。

8-3-4 . イベント発生時の「メール送信」の設定

・ここでは、本ボードにて発生した「イベント」を、「メール送信」する為の設定を行います。

- (1) 画面左側のメニューより、「基本設定メニュー」の中の「ネットワーク」を選択してください。
- (2) 表示された画面の「メール設定」部分に、メール関連の内容を入力してください。

メール設定

送信メールサーバーアドレス	0.0.0.0
E-MAIL アドレス・グループ1-1	
E-MAIL アドレス・グループ1-2	
E-MAIL アドレス・グループ1-3	
E-MAIL アドレス・グループ1-4	
送信者名	UPS
件名(省略時は「UPSイベント発生」になります)	

メールサーバーによっては送信者名に有効なアカウント例は、xxxx@domain.co.jp を設定しないと受け付けない場合があります。詳しくはメールサーバーの管理者にお尋ね下さい。
件名には「\$e」=イベント名、「\$i」=IPアドレス、「\$m」=送信者名が使用できます。

Mail送信テスト [メール詳細設定へ](#)

(3) 各項目の内容は下記になります。

項目名	項目の内容
送信メールサーバーアドレス	送信メールサーバー (SMTP) の IP アドレスを入力してください。
E-MAIL アドレス・グループ 1-1	送信先メールアドレスを入力してください。
E-MAIL アドレス・グループ 1-2	送信先メールアドレスを入力してください。
E-MAIL アドレス・グループ 1-3	送信先メールアドレスを入力してください。
E-MAIL アドレス・グループ 1-4	送信先メールアドレスを入力してください。
送信者名	任意の送信者名を入力してください。 ※メールサーバーによってはアカウント (例: xxxx@domain.co.jp) を設定しないと受け付けない場合があります。 詳しくはメールサーバーの管理者にお尋ねください。
件名	任意の件名を入力してください。 未入力の場合は「UPS イベント発生」になります。

(4) メール「送信先アドレス」は、「1つの送信グループ」に「4つのアドレス」を設定することができます。「送信グループ」は「4つのグループ」をご用意しております。
メールの送信先をグループ分けする事で、送信するメールを、必要性に応じて分ける事ができます。
尚、設定画面は、「グループ1」の設定となります。
その他の「グループ」の設定および、その他詳細設定については、別紙「ユーザズ・マニュアル」をご確認ください。

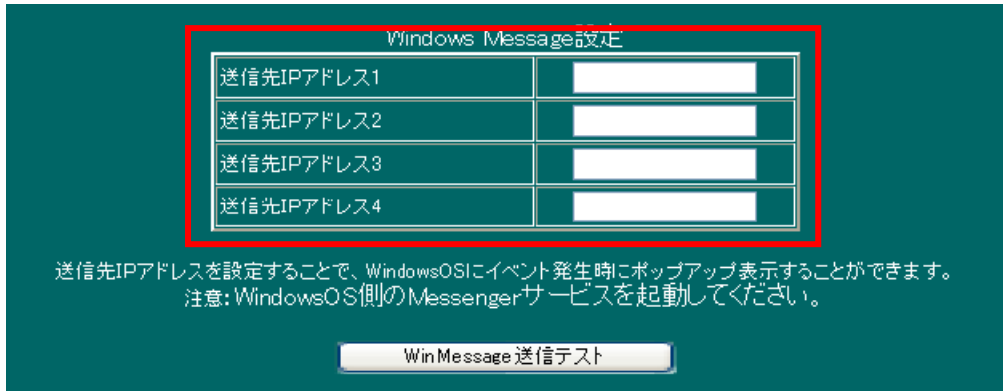
(5) 入力が済みましたら、設定画面の最下位に移動していただき、「設定」ボタンを実行してください。



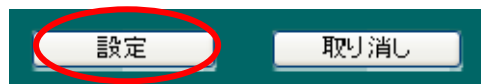
8-3-5 . イベント発生時の「Windows メッセージ送信先」の設定

・ここでは、本ボードにて発生した「イベント」を、「Windows メッセージ」にて送信する為の設定を行います。

- (1) 画面左側のメニューより、「基本設定メニュー」の中の「ネットワーク」を選択してください。
- (2) 表示された画面の「Windows Message 設定」部分に、「送信先 IP アドレス」を入力してください。送信先は「4つのアドレス」を設定できます。



- (3) 入力が済みましたら、設定画面の最下位に移動していただき、「設定」ボタンを実行してください。



「Windows Message」機能は、「Windows Vista」「Server 2008」以降のシステムでは、対応しておりません。

「メッセージ」を「受信」する「Windows システム」では、環境のセットアップを行ってください。Windows システムでの環境セットアップには、自動セットアップツールをご用意しております。本製品に同梱されている「CD-ROM」(¥WINSETUP)より、「WinSetup.exe」を起動してください。(内容に付きましては、「9 . スクリプト実行の対象となる「システム側」のセットアップ」をご確認ください。)

8-3-6 . 本ボードの「SNMP」の設定

・ここでは、本ボードの「SNMP」機能を利用する為の設定を行います。

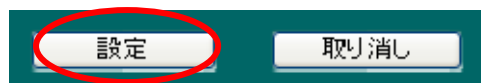
- (1) 画面左側のメニューより、「基本設定メニュー」の中の「ネットワーク」を選択してください。
- (2) 表示された画面の「SNMP 設定」部分に、「SNMP」関連の内容を入力してください。

SNMP設定	
コミュニティ名	public
送信漢字コード	<input checked="" type="radio"/> Shift-JIS <input type="radio"/> EUC
MIB設定	<input checked="" type="radio"/> JEMA <input type="radio"/> RFC1628
Jema 1.6.1、1.6.3 正常時返答値	<input checked="" type="radio"/> 旧ボードと同じ"0"を返す <input type="radio"/> MIB通り"-1"を返す

(3) 各項目の内容は下記になります。

項目名	項目の内容
コミュニティ名	コミュニティ名は、ご使用の「SNMP マネージャ」と合わせて設定してください。
送信漢字コード	「SNMP マネージャ」の使用環境に合わせて、漢字コードを選択してください。
MIB 設定	必要な情報に合わせて「MIB」を選択してください。 ※「MIB」情報は別紙資料（CD-ROM 内「¥MIB」）をご確認ください。
Jema 1.6.1、1.6.3 正常時返答値	こちらの設定は、本ボードの旧モデルと Jema-MIB 情報の互換を保つための選択になります。 ※旧モデルをご使用の環境で、本ボードをご使用の場合は、Jema-MIB 情報を互換を取る為に、「旧ボード～」を選択されることをお勧めします。

(4) 入力が済みましたら、設定画面の最下位に移動していただき、「設定」ボタンを実行してください。



システム側のセットアップ

MIB 設定：

システム側の SNMP 環境のセットアップとして、CD-ROM 内の「MIB」フォルダにある「JEMA」および「RFC1628」の MIB ファイルを、NMS（ネットワークマネジメントサーバ）にセットアップしてください。

(内容につきましては、別紙、ユーザズ・マニュアルの「10-5-1.「ネットワーク」メニュー (4)SNMP」をご確認ください。)

8-3-7. 本ボードの「SNMP トラップ送信先」の設定

・ここでは、本ボードにて発生した「イベント」を、「SNMP トラップ」にて送信する為の設定を行います。

- (1) 画面左側のメニューより、「基本設定メニュー」の中の「ネットワーク」を選択してください。
- (2) 表示された画面の「SNMP トラップ送信先アドレス」部分に、「SNMP マネージャ」がセットアップされている、「送信先 IP アドレス」を入力してください。

送信先は「8つのアドレス」を設定できます。

トラップポート番号は「162」固定です。

トラップ送信先IPアドレス1	<input type="text"/>
トラップ送信先IPアドレス2	<input type="text"/>
トラップ送信先IPアドレス3	<input type="text"/>
トラップ送信先IPアドレス4	<input type="text"/>
トラップ送信先IPアドレス5	<input type="text"/>
トラップ送信先IPアドレス6	<input type="text"/>
トラップ送信先IPアドレス7	<input type="text"/>
トラップ送信先IPアドレス8	<input type="text"/>

IPアドレス1から順に送信されます。
その間に“0.0.0.0”があるとそれより先は送信されません。

- (3) 入力が済みましたら、設定画面の最下位に移動していただき、「設定」ボタンを実行してください。



システム側のセットアップ

MIB 設定：

システム側の SNMP 環境のセットアップとして、CD-ROM 内の「MIB」フォルダにある「JEMA」および「RFC1628」の MIB ファイルを、NMS（ネットワークマネジメントサーバ）にセットアップしてください。

- （内容につきましては、別紙、ユーザーズ・マニュアルの「10-5-1.「ネットワーク」メニュー (4)SNMP」をご確認ください。）

8-3-8 . イベント発生時に実行させる「スクリプト」の設定

・ここでは、本ボードにて発生した「イベント」に合わせ、実行させる「スクリプト」の設定を行います。

機能	内容
スクリプト	スクリプトとは telnet または SSH(Ver.2、Ver.1)にて、対象のシステムへログインし、ログインしたシステム上で操作（処理）する為の手續きの事です。 本ボードでは主に、「システム・シャットダウン」や「メッセージ表示」を行うための手續きを設定します。

(1) 画面左側のメニューより、「UPS メニュー」の中の「スクリプト設定」を選択してください。

(2) 表示された画面では、「スクリプト」を実行させる為の情報を入力してください。

(3) 「スクリプト」の選択



(3)-1 . 設定画面の上の選択ボタンにて、「**単独表示**」を選択してください。

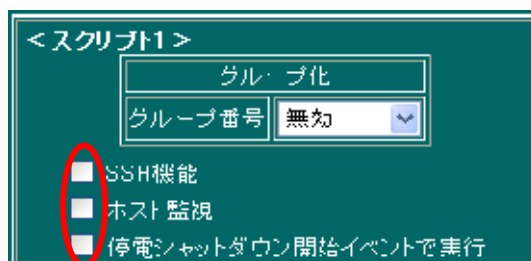
「4個表示」「16個表示」については、別紙「ユーザーズ・マニュアル」をご確認ください。

(3)-2 . 「01」から「64」の表示から、「01」を選択してください。

「スクリプト」は、最大64個まで設定する事ができます。

下のボタン「スクリプト・コピー」「グループ複写設定」「別ウィンドウで開く」については別紙、「ユーザーズ・マニュアル」をご確認ください。

(4) 「機能」の選択



(4)-1 . 各項目の内容は下記になります。

項目名	項目の内容
SSH 機能	「チェック」を入れる事で、本ボードは「SSH」機能にてシステムへログインします。 ログインされるシステム側では、「SSH」環境の構築が必要です。 ※「チェック」が無い場合は、「Telnet」にてシステムへログインします。
ホスト監視	「チェック」を入れる事で、現在設定を行っている「スクリプト」が実行されるシステムの死活監視を行います。 ※「ホスト監視」は、「UPS メニュー」の「ホスト監視」画面に表示されます。
停電シャットダウン開始イベントで実行	「チェック」を入れる事で、現在設定を行っている「スクリプト」を、「UPS」へ停止命令を実行する前の段階（本ボードのシステム停止処理の「停電シャットダウン開始」イベントのタイミング）で実行します。 ※本ボードよりシステムをシャットダウンさせる場合は、チェックを入れてください。

(5) システムへ「ログイン」する為の設定

IPアドレス	0.0.0.0
アドレステスト	IPアドレステスト
コメント	
USER1	
PASS1	●●●●●●●●
USER2	
PASS2	●●●●●●●●
コマンドラインオプション指定	

(5)-1 . 各項目の内容は下記になります。

項目名	項目の内容
IP アドレス	現在設定を行っている「スクリプト」の対象となるシステムの、「IP アドレス」を入力してください。 ※「0.0.0.0」では何もしません。
IP アドレステスト	「IP アドレス」に指定された「アドレス」がネットワーク内に存在するか確認します。(ping コマンドによるテスト。)

コメント	任意の文字列を入力してください。(半角 31 文字まで) ※「スクリプト」機能とは関係有りません。
USER1	本ボードからシステムへログインする為の「ユーザ」名を入力してください。 ※指定される「ユーザ」は、ログインするシステムに「登録」が必要です。 ※ログインするシステムが「Windows」システムの場合、指定する「ユーザ」には、「Administrators」グループへの「登録」が必要です。(administrator も指定できます。) ※ログインするシステムが「Unix」「Linux」システムの場合、指定する「ユーザ」は、「一般」ユーザを指定してください。(root は指定しないでください。)
PASS1	「USER1」に指定された、「ユーザ」の「パスワード」を入力してください。(パスワードは必ず指定してください。リモートログインに必要です。)
USER2	本ボードからログインするシステムが、「Unix」「Linux」システムの場合の項目です。本ボードでは、「Unix」「Linux」システムへログインする場合、初めに「一般」ユーザでシステムへログインし、その後、「root」ユーザとして再ログインします。 「USER2」へは、「管理者権限」のある「ユーザ」名を入力してください。 但し、「su」コマンドにて「root」ログインする場合は、「USER2」の指定は不要です。(「su」のパスワードは「PASS2」へ指定してください。) ※「Windows」システムの場合は、「USER2」の入力は不要です。
PASS2	「USER2」に指定された、「ユーザ」(または「su」コマンド)の「パスワード」を入力してください。(パスワードは必ず指定してください。)
コマンドライン オプション指定	「SSH 機能」項目に「チェック」した場合の、「SSH」コマンドの起動オプションです。(オプション:「-2」は「SSH Ver2」を使用、「-1」は「SSH Ver1」を使用)

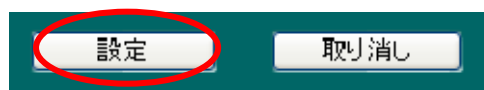
(6) 実行する「スクリプト」の設定

(6)-1 . 各項目の内容は下記になります。

項目名	項目の内容
実行遅延時間	現在設定している「スクリプト」の実行を遅延させる事ができます。 本ボードより「スクリプト」を実行する場合、小さい「スクリプトNo.」から、同時に最大 20 個を実行します。その中で、実行を遅延させる事ができます。
リトライ回数	現在設定している「スクリプト」の実行が「失敗」した場合に、再実行を行う回数です。 ※「UPS」の「バッテリー残量」が低下（バッテリー限界）した場合は、再実行しません。 ※「スクリプト」実行の対象となるシステムが「起動途中」に、停電が発生した場合などにも有効です。
リトライ後の待機時間	現在設定している「スクリプト」の実行が「失敗」した場合に、再実行を行うまでの待機時間です。 ※「実行遅延時間」は含みません。 ※「スクリプト」実行の対象となるシステムが「起動途中」に、停電が発生した場合などにも有効です。
スクリプト単独実行	「チェック」を入れる事で、現在設定を行っている「スクリプト」を、「単独」で実行します。 本ボードの「スクリプト」実行は、小さい「スクリプトNo.」から最大 20 個を同時に実行します。その中で、「単独」に実行を行います。 この機能を利用し、複数の「スクリプト」を分割して実行させる事もできます。 分割実行させる場合は、複数の「スクリプト」の中で、分割させたい部分に、IP アドレスが「0.0.0.0」の「スクリプト」を「単独実行」に設定してください。 IP アドレスが「0.0.0.0」の「スクリプト」は、何も処理せずに終了します。 <単独実行の実行例> ① 本ボードの「イベント」に複数の「スクリプト」を設定し、「単独実行」を「スクリプトNo.1」に設定した場合は、初めに「スクリプトNo.1」を実行し、終了してから、残りの「スクリプトNo.2」以降を同時実行します。 (「No.1(単独)実行 → 終了」 → 「No.2～ 実行」)

	<p>② 本ボードの「イベント」に複数の「スクリプト」を設定し、「単独実行」を「スクリプトNo.6」に設定した場合は、初めに「スクリプトNo.1」～「No.5」を同時実行し、終了してから、「スクリプトNo.6」を「単独」で実行します。その後、残りの「スクリプトNo.7」以降を同時実行します。</p> <p>(「No.1～No.5 実行 → 終了」 → 「No.6(単独)実行 → 終了」 → 「No.7～ 実行」)</p> <p>③ 本ボードの「イベント」に複数の「スクリプト」を設定し、「スクリプト」を分割実行させる為に、「単独実行」を「スクリプトNo.6」に設定し、IPアドレスを「0.0.0.0」に設定した場合は初めに「スクリプトNo.1」～「No.5」を同時実行し、終了してから、「スクリプトNo.6」を「単独」にて「未処理」で実行します。その後、残りの「スクリプトNo.7」以降を同時実行します。</p> <p>(「No.1～No.5 実行 → 終了」 → 「No.6(単独: IP 0.0.0.0)実行 → 終了」 → 「No.7～ 実行」)</p>
スクリプト編集	<p>実行する「スクリプト」の内容を入力してください。</p> <p>「スクリプト」の設定方法は、「選択方式へ」ボタンと、「編集方式へ」のボタンをご用意しております。</p> <p>このボタンを実行された時は、それまで指定された設定内容を一度保存します。</p> <p>①「編集方式へ」ボタン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・このボタンを押すと、「スクリプト」をテキスト入力することができます。 <p>②「選択方式へ」ボタン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・このボタンを押すと、「スクリプト」の内容をプルダウンメニューから選択することができます。プルダウンメニューでは、代表的なシステムの「シャットダウン・スクリプト」を選択できるようにしております。 ・システムの「シャットダウン」以外のコマンドを指定する場合、ここで選択した後に「編集方式へ」ボタンを押してテキスト形式にて編集してください。
テスト	<p>現在設定している「スクリプト」を実行し動作を確認することができます。</p> <p>※ 設定された「スクリプト」は、一度「テスト」ボタンを実行し、正常に処理される事を、ご確認ください。</p>

(7) 入力が済みましたら、設定画面の最下位に移動していただき、「設定」ボタンを実行してください。



「スクリプト」を「指定」する「システム」側では、環境のセットアップを行ってください。
 (内容につきましては、「**9. スクリプト実行の対象となる「システム側」のセットアップ**」をご確認ください。)

8-3-9 . 発生したイベントに対応させる「実行処理」の設定

・ここでは、本ボードにて発生した「イベント」に合わせ実行させる、「処理」(スクリプト、メール Windows メッセージ) の設定を行います。

- (1) 画面左側のメニューより、「UPS メニュー」の中の「イベント設定」を選択してください。
- (2) 表示された画面では、本ボードにて発生した「イベント」に合わせ、実行させる「スクリプト」処理、「メール」処理、「Windows メッセージ」処理を選択してください。

(3) 「処理」の選択

No	イベント項目	スクリプト No.																メッセージ通知				E-Mail通知			
		01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	チェック反転	1	2	3	4			
1	Advanced NW board動作開始	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				
2	正常動作中	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				
3	AC電源復旧	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				
4	AC停電発生	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				
5	停電シャットダウン準備中	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				

(3)-1 . 各項目の内容は下記になります。

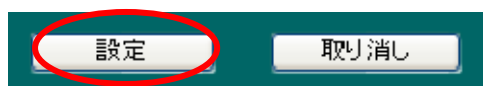
項目名	項目の内容	
イベント項目	本ボードで機能する「イベント」は下記になります。	
	<イベント名>	<イベント発生のタイミング>
	1. Advanced NW board 動作開始	本ボードが動作を開始した時に、このイベントは発生します。
	2. 正常動作中	本ボードが動作を開始後、正常に機能を開始した時に、このイベントは発生します。
	3. AC電源復旧	停電が回復した時に、このイベントは発生します。
	4. AC停電発生	停電が発生した時に、このイベントは発生します。
	5. 停電シャットダウン準備中	停電の発生により、本ボードの「シャットダウン告知時間(ディレイ2)」へ進みますと、このイベントは発生します。 ※「シャットダウン告知時間(ディレイ2)」については <u>8-3-3. システム停止(シャットダウン)までの「待機時間」</u> 設定をご確認ください。 ※ 当イベントのチェックをON/OFF しますと、同時に「8 指示シャットダウン準備中」のチェックもON/OFF されます。
	6. 停電シャットダウン開始	停電の発生により、本ボードの「シャットダウン処理時間(ディレイ3)」へ進みますと、このイベントは発生します。 ※「シャットダウン処理時間(ディレイ3)」については <u>8-3-3. システム停止(シャットダウン)までの「待機時間」</u> 設定をご確認ください。 ※ 当イベントのチェックをON/OFF しますと、同時に「9 指示シャットダウン開始」のチェックもON/OFF されます。
7. 停電シャットダウン実行完了	「停電シャットダウン開始」イベント後に、このイベントは必ず発生し、ログに記録されます。	

	<p>「シャットダウン」処理の一連のイベントになります。</p> <p>※ このイベントは、「スクリプト」実行の有無に関係無く記録されます。</p>
8. 指示シャットダウン準備中	<p>「スケジュール」設定やブラウザからの「シャットダウン」操作などにより、本ボードの「シャットダウン告知時間(デレイ2)」へ進みますと、このイベントは発生します。</p> <p>※ 「シャットダウン告知時間(デレイ2)」については</p> <p><u>8-3-3. システム停止(シャットダウン)までの「待機時間」</u>設定をご確認ください。</p> <p>※ 「5 停電シャットダウン準備中」のチェックを ON/OFF しますと、同時に当イベントのチェックも ON/OFF します。</p>
9. 指示シャットダウン開始	<p>「スケジュール」設定やブラウザからの「シャットダウン」操作などにより、本ボードの「シャットダウン処理時間(デレイ3)」へ進みますと、このイベントは発生します。</p> <p>※ 「シャットダウン処理時間(デレイ3)」については</p> <p><u>8-3-3. システム停止(シャットダウン)までの「待機時間」</u>設定をご確認ください。</p> <p>※ 「6 停電シャットダウン開始」のチェックを ON/OFF しますと、同時に当イベントのチェックも ON/OFF します。</p>
10. 指示シャットダウン実行完了	<p>「指示シャットダウン開始」イベント後に、このイベントは必ず発生し、ログに記録されます。</p> <p>「シャットダウン」処理の一連のイベントになります。</p> <p>※ このイベントは、「スクリプト」実行の有無に関係無く記録されます。</p>
11. シャットダウン処理中断	<p>「終了メニュー」より、「シャットダウン中止」を実行した時に、このイベントは発生します。</p>
12. スケジュールシャットダウン	<p>「スケジュール」設定による処理を開始した時に、このイベントは発生します。</p> <p>※ このイベントと同時に「指示シャットダウン準備中」イベントも発生します。</p>
13. UPS 出力開始	<p>本ボードが設置されている UPS が電源供給を開始した時に、このイベントは発生します。</p>
14. UPS 出力停止	<p>本ボードが設置されている UPS が電源供給を停止した時に、このイベントは発生します。</p>
15. バッテリ交換	<p>本ボードが設置されている UPS のバッテリーの寿命が近づいている事を検出し、バッテリーの交換状態になっている時にこのイベントは発生します。</p> <p>※ このイベントは 24 時間毎に発生します。</p> <p>※ バッテリーの寿命は、UPS の使用環境(特に温度)により変化します。</p>
16. バッテリ放電終止	<p>本ボードが設置されている UPS のバッテリー残量が無くなり、UPS が停止する時に、このイベントは発生します。</p>
17. バッテリ限界	<p>本ボードが設置されている UPS がバッテリーの寿命を迎え、</p>

		<p>すぐにバッテリーの交換が必要な状態になっている時にこのイベントは発生します。</p> <p>※ このイベントは 24 時間毎に発生します。</p> <p>※ バッテリーの寿命は、UPS の使用環境(特に温度)により変化します。</p>
18. バッテリー異常発生		本ボードが設置されている UPS が、バッテリーの異常を検出した時に、このイベントは発生します。
19. 温度異常発生		本ボードが設置されている UPS が、UPS 装置内の温度異常を検出した時に、このイベントは発生します。
20. UPS 接続失敗		本ボードと、本ボードが設置されている UPS が、通信できない時に、このイベントは発生します。
21. UPS 重故障発生		本ボードが設置されている UPS が、UPS 装置内の異常 (UPS の ALARM) を検出した時に、このイベントは発生します。
22. UPS 警告発生		本ボードが設置されている UPS が、UPS 装置内の警告 (UPS の CAUTION) を検出した時に、このイベントは発生します。
23. UPS 警告回復		本ボードが設置されている UPS が、UPS 装置内の警告 (UPS の CAUTION) から回復した時に、このイベントは発生します。
24. 過負荷発生		本ボードが設置されている UPS が、過負荷状態を検出した時に、このイベントは発生します。
25. 監視ホスト停止		「ホスト監視」機能にて、監視しているシステムが、通信不能となった時に、このイベントは発生します。
26. 監視ホスト起動		「ホスト監視」機能にて、監視しているシステムが、通信可能となった時に、このイベントは発生します。
27. システムエラー発生		本ボードにシステム的な問題が発生した時に、このイベントは発生します。
29. ユーザ定義イベント 1		<p>本ボードの「ユーザ定義イベント」に設定されたイベントが発生した時に、このイベントは発生します。</p> <p>※ 「ユーザ定義イベント」については、別紙「ユーザーズ・マニュアル 10-4-7. ユーザ定義イベント」をご確認ください。</p>
30. ユーザ定義イベント 2		<p>本ボードの「ユーザ定義イベント」に設定されたイベントが発生した時に、このイベントは発生します。</p> <p>※ 「ユーザ定義イベント」については、別紙「ユーザーズ・マニュアル 10-4-7. ユーザ定義イベント」をご確認ください。</p>
31. ユーザ定義イベント 3		<p>本ボードの「ユーザ定義イベント」に設定されたイベントが発生した時に、このイベントは発生します。</p> <p>※ 「ユーザ定義イベント」については、別紙「ユーザーズ・マニュアル 10-4-7. ユーザ定義イベント」をご確認ください。</p>
32. ユーザ定義イベント 4		<p>本ボードの「ユーザ定義イベント」に設定されたイベントが発生した時に、このイベントは発生します。</p> <p>※ 「ユーザ定義イベント」については、別紙「ユーザーズ・マニュアル</p>

		ル 10-4-7. ユーザ定義イベント」をご確認ください。
	33. ユーザ定義イベント 5	本ボードの「ユーザ定義イベント」に設定されたイベントが発生した時に、このイベントは発生します。 ※「ユーザ定義イベント」については、別紙「ユーザーズ・マニュアル 10-4-7. ユーザ定義イベント」をご確認ください。
	34. ユーザ定義イベント 6	本ボードの「ユーザ定義イベント」に設定されたイベントが発生した時に、このイベントは発生します。 ※「ユーザ定義イベント」については、別紙「ユーザーズ・マニュアル 10-4-7. ユーザ定義イベント」をご確認ください。
	35. ユーザ定義イベント 7	本ボードの「ユーザ定義イベント」に設定されたイベントが発生した時に、このイベントは発生します。 ※「ユーザ定義イベント」については、別紙「ユーザーズ・マニュアル 10-4-7. ユーザ定義イベント」をご確認ください。
	36. ユーザ定義イベント 8	本ボードの「ユーザ定義イベント」に設定されたイベントが発生した時に、このイベントは発生します。 ※「ユーザ定義イベント」については、別紙「ユーザーズ・マニュアル 10-4-7. ユーザ定義イベント」をご確認ください。
	37. ユーザ定義イベント 9	本ボードの「ユーザ定義イベント」に設定されたイベントが発生した時に、このイベントは発生します。 ※「ユーザ定義イベント」については、別紙「ユーザーズ・マニュアル 10-4-7. ユーザ定義イベント」をご確認ください。
	38. ユーザ定義イベント 10	本ボードの「ユーザ定義イベント」に設定されたイベントが発生した時に、このイベントは発生します。 ※「ユーザ定義イベント」については、別紙「ユーザーズ・マニュアル 10-4-7. ユーザ定義イベント」をご確認ください。
スクリプトNo.	本マニュアルの「 <u>8-3-8. イベント発生時に実行させる「スクリプト」の設定</u> 」にて設定されました、「スクリプト」の「No.」になります。 ※ 本資料では、No.「01」を指定する説明になっております。 ※ 「スクリプトNo.」は、1 ～ 64 までになります。設定画面での表示は16個ずつ（「1 ～ 16」「17 ～ 32」「33 ～ 48」「49 ～ 64」）の表示になっております。	
メッセージ通知	本マニュアルの「 <u>8-3-5. イベント発生時の「Windows メッセージ」の設定</u> 」にて設定されました、「送信先」の全てへメッセージ通知します。	
E-Mail 通知	本マニュアルの「 <u>8-3-4. イベント発生時の「メール送信」の設定</u> 」にて設定されました、「送信先」へ、「グループ」毎にメール通知します。 ※ 本資料では、No.「グループ 1」を指定する説明になっております。	

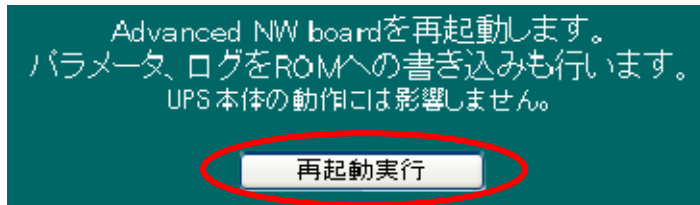
(4) 入力が済みましたら、設定画面の最下位に移動していただき、「設定」ボタンを実行してください。



8-3-10 . 本ボードの「再起動」

・「基本機能のセットアップ」が終わりましたら、一度、本ボードを再起動してください。

- (1) 画面左側のメニューより、「メンテナンスメニュー」の中の「BOARD 再起動 / パラメータ保存 / 初期化」を選択してください。
- (2) 表示された画面より、「再起動実行」ボタンを実行してください。
再起動には、約70秒弱かかります。



本ボードの「IP アドレス」を変更された場合は、再起動後に情報が表示されなくなります。この現象は、本ボードと「設定用コンピュータ」のネットワークアドレスが異なるため発生します。本ボードへ再接続される場合は、「設定用コンピュータ」の「IP アドレス」を、本ボードのネットワークアドレスに合わせてください。

9 . スクリプト実行の対象となる「システム側」のセットアップ

- (1) 「システム側」のセットアップでは、本ボードに設定されました「スクリプトの設定」にて「スクリプト」の実行ターゲットとなっている、システム側の環境セットアップを行います。
- (2) 「システム側」のセットアップは、「スクリプト」の実行ターゲットとなっている、システム上にてセットアップを行います。

9-1 . 「システム側」のセットアップの内容

- (1) 本ボードの「スクリプト」実行機能は、「スクリプト」の対象となるターゲットのシステムへネットワークにてログインします。
その為、システム側では、本ボードがログインする為のログイン機能を「有効」にする必要があります。利用する機能は下記になります。

Telnet (Windows、UNIX系)

SSH Version.1 (UNIX系)

SSH Version.2 (UNIX系)

ログイン機能は、本ボードの設定にて「SSH」を指定していない場合は、「Telnet」機能にてログインします。

「SSH」機能にてログインされる場合は、本ボードの「スクリプト設定」にて、「SSH」を指定してください。

9-2 . 「Telnet」「SSH」のセットアップ方法

・各セットアップ方法は下記になります。

「Telnet」「SSH」のセットアップ方法は、オペレーティングシステムの種類やバージョンにより異なります。

ここでは、一般的なセットアップの方法をご説明いたします。

セットアップ後に、「機能が正しく起動されない場合」、「セットアップ方法が異なる場合」、または「詳細な内容」につきましては、オペレーティングシステムのマニュアルをご覧ください。直接オペレーティングシステムのメーカーへお問合せください。

項番	項目名
9-3	「Telnet」のセットアップ (Windows 系、UNIX 系)
9-4	「SSH」のセットアップ (UNIX 系)

9-3 . 「Telnet」のセットアップ

オペレーティングシステムに、「Telnet」サーバーがインストールされていない場合は、インストール作業を行ってください。

近年、セキュリティ強化のため、「Telnet」サーバーがデフォルトで「有効」になっていない事が多くなっています。

UNIX 系のシステムについては、コマンドラインより「Telnet」サーバーを起動させる「一例」を掲載します。

GUI 環境からの設定および詳細につきましては、各オペレーティングシステムのマニュアルをご覧ください。直接オペレーティングシステムのメーカーへお問い合わせください。

「Telnet」セットアップの一例

項番	項目名
9-3-1	「Windows 2000」「Server 2003」「XP」システムのセットアップ 「HOME」は未サポートです。
9-3-2	「Windows Vista」システムのセットアップ 「HOME」は未サポートです。
9-3-3	「Solaris 10」システムのセットアップ
9-3-4	「Redhat Linux」「TurboLinux」システムのセットアップ
9-3-5	「Vine Linux」のセットアップ

9-3-1 .「Windows 2000」「Server 2003」「XP」システムのセットアップ

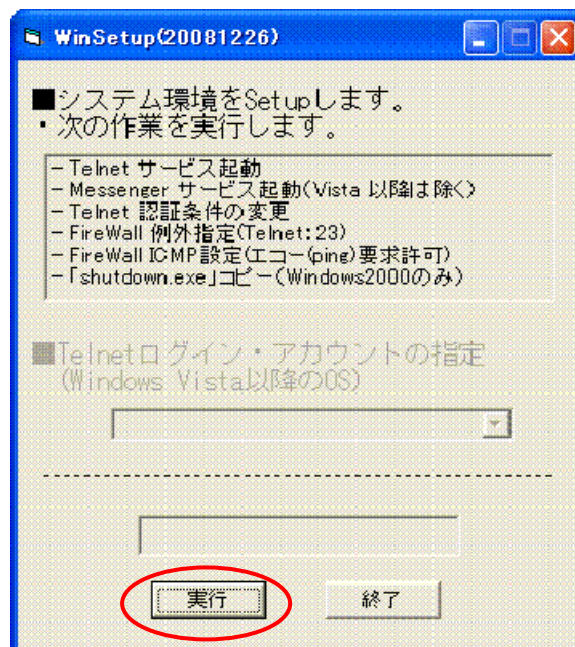
「HOME」エディションは「サポート」していません。

- (1) Windows システムでの環境セットアップには、自動セットアップツールをご用意しております。本製品に同梱されている「CD-ROM」(¥WINSETUP)より、「WinSetup.exe」を起動してください。

「WinSetup」によるセットアップの内容

OS 名	処理内容
Windows 2000	shutdown.exe (yec 製) のコピー ・システム・シャットダウン用のプログラム (¥system32 フォルダにコピー) (既存の shutdown.exe (MS 製) は、「shutdown.exe.Yback」に名前変更し、残します。)
Windows 2000	サービス ・システム制御の有効化 (状態：開始、スタートアップ：自動)
Windows XP 「HOME」は未サポートです。	Messenger サービス ・Windows へのメッセージ通知有効化 (状態：開始、スタートアップ：自動)
Windows Server 2003	設定 ・認証条件 (Passwd のみ) ・FireWall 例外設定 (ポート(23))

- (2) 「WinSetup.exe」を起動しますと、セットアップ・プログラムの画面 (下記) が表示されますので、「実行」ボタンを押してください。



- (3) 「WinSetup」プログラムの画面に、「処理終了」が表示されましたら、環境セットアップは終了です。「終了」ボタンを押し、プログラムを終了してください。
- (4) 最後に、システムを「再起動」してください。

「WinSetup.exe」実行してもメッセージが表示されない場合は、「ファイヤーウォール」の「例外」の「ファイルとプリンタの共有」を「有効」にしてください。

9-3-2 .「Windows Vista」システムのセットアップ

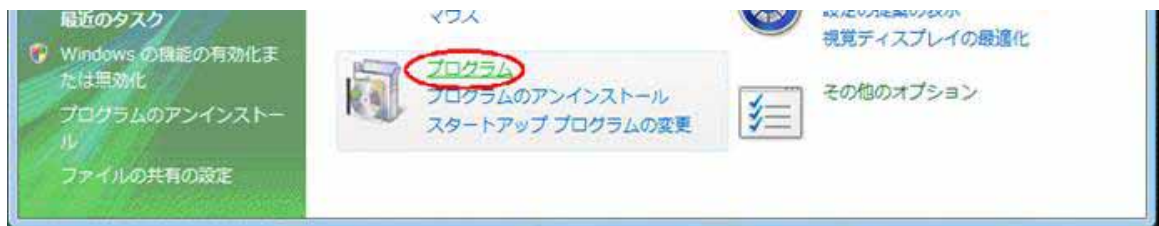
「HOME」エディションは「サポート」していません。

- ・「Windows Vista」システムでは、初期設定にて「Telnet サーバー」が「無効」になっております。
先ずは、「Telnet サーバー」を有効にしてから、セットアップを行います。

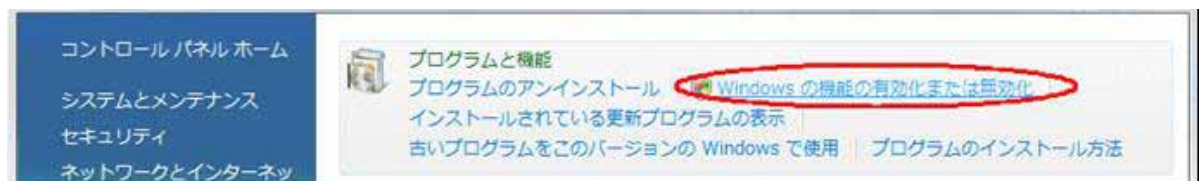
9-3-2-1 .「Telnet サーバー」のインストール

- ・以下の手順で「Telnet サーバー」機能を追加します。

- (1) システムの「コントロール パネル」から、「プログラム」を実行してください。
クラシック表示の場合は、「プログラムの追加と削除」になります。



- (2) 「Windows の機能の有効化または無効化」を実行してください。

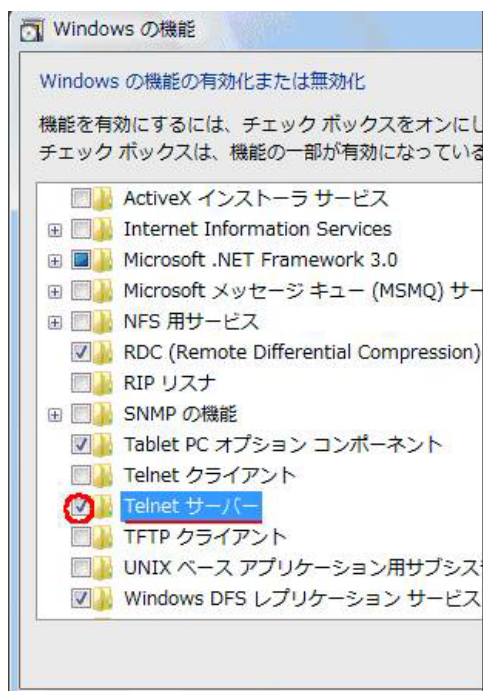


- (3) 「ユーザーアカウント制御」メッセージが表示されましたら、「続行」ボタンを実行し
その後、管理者アカウント (Administrator) のパスワードを入力してください。



(4) 「Windows の機能」画面から「Telnet サーバー」を「チェック」し、「OK」ボタンを実行してください。

「サーバermanage」で表示されている場合は、「機能」メニューにて「機能の追加」を実行してください。



その後、「実行中」の画面が表示され、終了すると「Telnet サーバー」機能が追加されます。

9-3-2-2 .「Windows Vista」システムの環境セットアップ

(1) Windows システムでの環境セットアップには、自動セットアップツールをご用意しております。

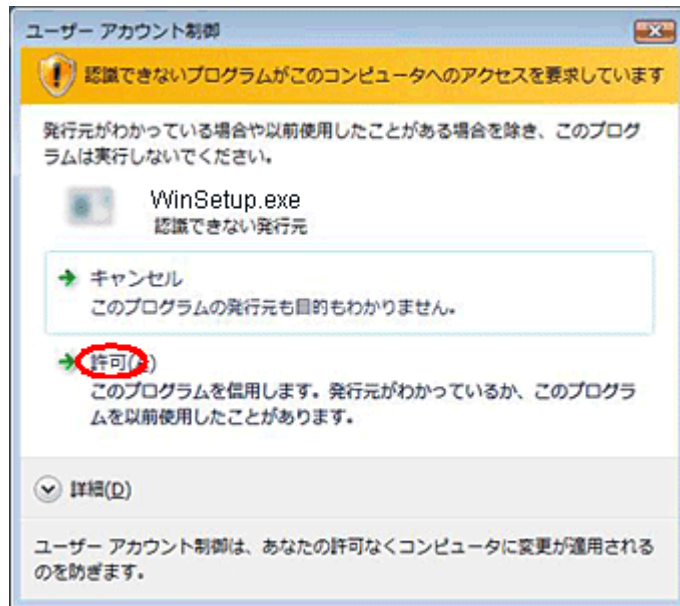
本製品に同梱されている「CD-ROM」(¥WINSETUP) より、「WinSetup.exe」を起動してください。

本セットアップは、前項 (9-3-2-1 .) の「Telnet サーバー」のインストール後に実行してください。

「WinSetup」によるセットアップの内容

OS 名	処理内容
Windows Vista 「HOME」は未サポートです。	サービス ・システム制御の有効化 (状態 : 開始、スタートアップ : 自動) 設定 ・認証条件 (Passwd のみ) ・FireWall 例外設定 (ポート (23)) ・ログインアカウントの追加

(2) 「ユーザーアカウント制御」メッセージが表示されましたら、「許可」ボタンを実行してください。



(3) 「WinSetup.exe」を起動しますと、セットアップ・プログラムの画面（下記）が表示されます。

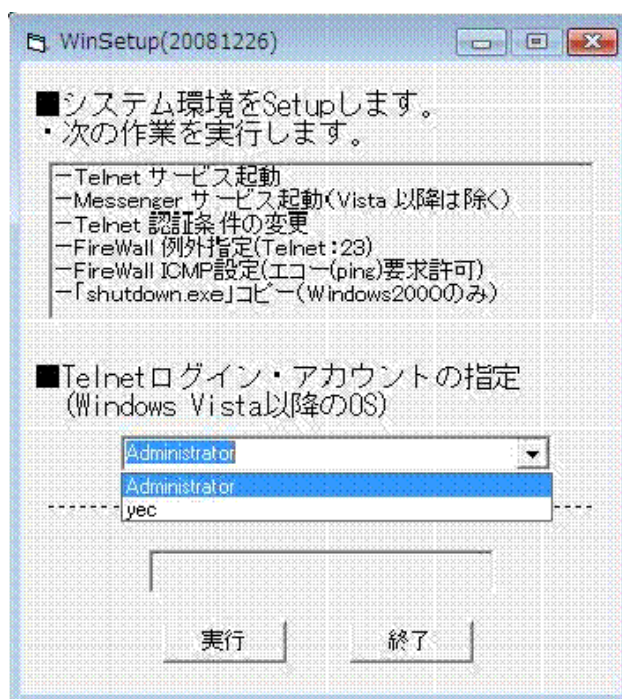
(4) 「実行」ボタンを押す前に、画面上の「Telnet ログイン・アカウントの指定」項目へ、本ボードから「Telnet」でログインするための、「Administarators」権限を持った「ユーザ・アカウント」を指定してください。「Administarator」を指定することも可能です。

「Administarator」以外の「アカウント」を指定する場合は、本プログラムを実行する前に「Administarators」権限を持った別の「アカウント」を追加してください。

【注意】

指定する「アカウント」には、「パスワード」を設定してください。

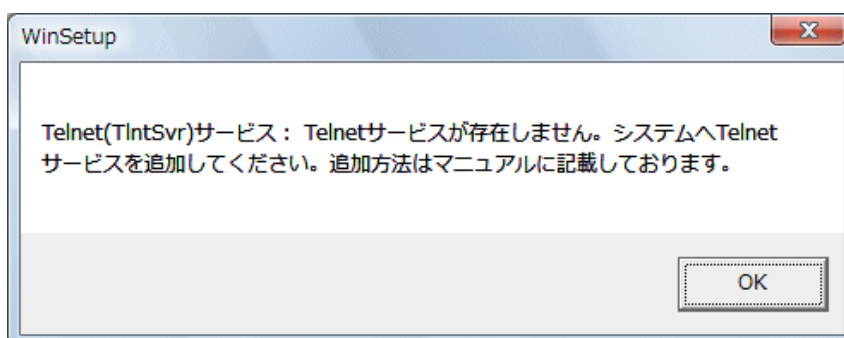
「パスワード」が設定されていない場合は、「Telnet」ログインに失敗します。



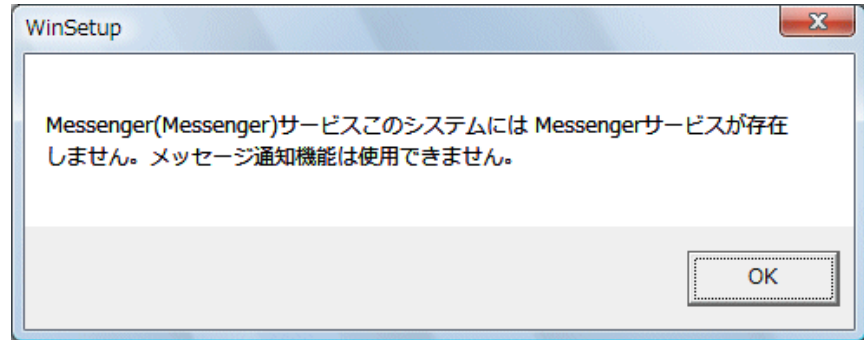
(5) 「アカウント」を指定したら、「実行」ボタンを押してください。

(6) 実行中に下記メッセージが表示された場合、「Telnet サーバー」機能が登録されていません。

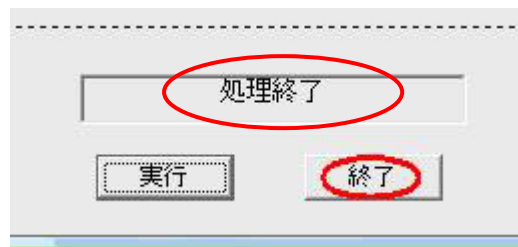
「9-3-2-1.「Telnet サーバー」のインストール」をご確認いただき、「Telnet サーバー」機能を追加してください。



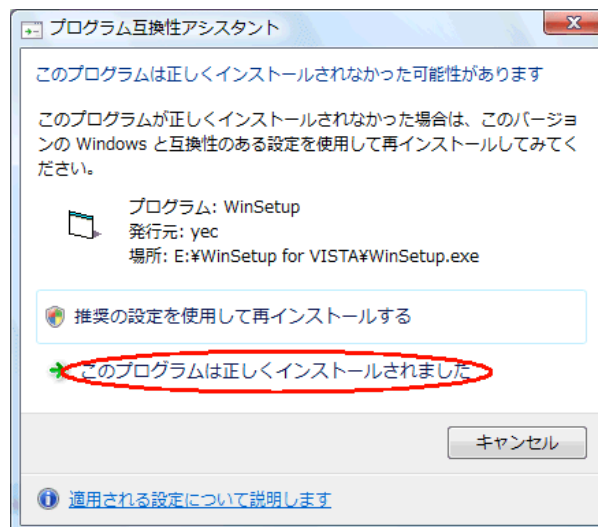
- (7) システムが「Messenger」サービスをサポートしていない場合は、下記メッセージが表示されます。



- (8) 「WinSetup」プログラムの画面に、「処理終了」が表示されましたら、環境セットアップは終了です。「終了」ボタンを押し、プログラムを終了してください。



プログラムを終了した後に、「プログラム互換性アシスタント」画面が表示されることがあります。この場合は、「このプログラムは正しくインストールされました」を実行してください。



- (9) 最後に、システムを「再起動」してください。

9 - 3 - 3 .「Solaris 10」システムのセットアップ

- ・ Solaris 10 システムでの「Telnet」環境のセットアップは、「inetadm」コマンドと「inetconv」コマンドにて、セットアップを行います。

最後にシステムを再起動します。

「Solaris 9」では、初期状態にて有効になっております。

- (1) 「inetadm」コマンドの「-l」オプションにより、Telnet サービスのプロパティ情報を表示します。

実行コマンド

```
# inetadm -l telnet:default | grep tcp_trace
```

レスポンス

```
default tcp_trace=FALSE
```

- (2) 「inetadm」コマンドの「-m」オプションにより、Telnet サービスのプロパティ値を変更します。

実行コマンド

```
# inetadm -m svc:/network/telnet:default tcp_trace=TRUE
```

- (3) 再度、「inetadm」コマンドの「-l」オプションにより、Telnet サービスのプロパティ情報を表示し、変更の確認をします。

実行コマンド

```
# inetadm -l telnet:default | grep tcp_trace
```

レスポンス

```
default tcp_trace= TRUE
```

- (4) 「inetd.conf」を編集し、「inetconv」コマンドにより、レジストリに書き込みます。

実行コマンド

```
# inetconv -i /etc/inet/inetd.conf
```

- (5) システムを「再起動」してください。

9 - 3 - 4 .「Redhat Linux」システムのセットアップ

- ・ Redhat Linux システムでの「Telnet」環境のセットアップは、「telnet」ファイルを編集し「xinetd」デーモンを再起動します。

(1) 「/etc/xinetd.d/telnet」ファイルを、エディタで開いて編集してください。

変更箇所

```
service telnet {  
    disable      = no ← 「yes」を「no」に変更する  
    socket_type  = stream  
    protocol     = tcp  
    wait        = no  
    user        = root  
    server       = /usr/sbin/in.telnetd  
    server_args = -h  
}
```

(2) 「xinetd」デーモンを、再起動してください。

実行コマンド

```
# /etc/rc.d/init.d/xinetd restart
```

(3) 上記により、セットアップは終了ですが、システムへ、本ボードや他のコンピュータから「telnet」にてログインできない場合は、「/etc/hosts.allow」ファイルを、エディタで開いて編集してください。この telnet 項目を以下のように変更をしてください。

変更箇所

- ・ 下記「telnet」の項目を下記に変更してください。

```
in.telnetd: 192.168.1.0/255.255.255.0 :ALLOW
```

- ・ ファイル変更し保存されましたら、システムを再起動してください。

9 - 3 - 5 .「Vine Linux」システムのセットアップ

- ・Vine Linux システムでの「Telnet」環境のセットアップは、先ず初めに「telnet」サーバーをインストールします。その後、「inetd.conf」ファイルを編集し、システムを再起動します。

(1) 「telnet サーバー」をインストールします。

実行コマンド

```
# apt-get install telnet-server
```

(2) 「inetd.conf」ファイルを、エディタで開いて編集してください。

```
#telnet stream tcp nowait root /usr/sbin/tcpd in.telnetd
```

(「#」(コメント)を削除します。)

```
telnet stream tcp nowait root /usr/sbin/tcpd in.telnetd
```

(3) システムを「再起動」してください。

9-4 .「SSH」のセットアップ

本ボードは、「SSH Version.2」(以降、SSHv2)と「SSH Version.1」(以降、SSHv1)に対応しております。

ここでは、システムの一例について、「SSH」のセットアップをご説明します。

「SSHv1」が対応されていないOSについては、SSHのconfig(sshd_config)ファイルの編集が必要です。SSHv1サービスを起動させる一例を掲載しますが、詳細につきましては、各OSメーカーにお問い合わせください。GUI環境からの設定および詳細につきましては、各OSのマニュアルをご覧ください。

UNIX系のシステムについては、コマンドラインより「Telnet」サーバーを起動させる「一例」を掲載します。

GUI環境からの設定および詳細につきましては、各オペレーティングシステムのマニュアルをご覧ください。直接オペレーティングシステムのメーカーへお問い合わせください。

「SSH」セットアップの一例

項番	項目名
9-4-1	「Solaris 10」「Solaris 9」システムのセットアップ
9-4-2	「Redhat Linux」システムのセットアップ
9-4-3	「MAC OS X」システムのセットアップ

9 - 4 - 1 .「Solaris 10」「Solaris 9」システムのセットアップ

- ・ Solarisでは、初期設定にて「SSHv2」が有効となっております。
「SSHv2」をご利用の場合は、特にセットアップは必要ありません。
- ・ 「SSHv1」をご利用される場合は、セットアップが必要です。

- (1) 「SSHv1」の設定及び、「SSHv1」用の「ホスト鍵」を作成します。
作業は「root」権限アカウントにて行ってください。

実行コマンド

```
# ssh-keygen -t rsa1 -f /etc/ssh/ssh_host_key
```

パスフレーズを聞いてきますが、「なし」で生成してください。

コマンドを実行しますと、「/etc/ssh」の下に「ssh_host_key」ファイルが生成されます。

- (2) 「/etc/ssh/sshd_config」ファイルを、エディタで開いて編集してください。
protocol 1,2 「protocol 2」を「protocol 1,2」へ変更します。

- (3) システムを「再起動」してください。

9 - 4 - 2 .「Redhat Linux」システムのセットアップ

- ・ Redhat Linuxでは、初期設定にて「SSHv2」が有効となっております。
「SSHv2」をご利用の場合は、特にセットアップは、必要ありません。
- ・ 「SSHv1」をご利用される場合は、セットアップが必要です。

- (1) 「SSHv1」の設定及び、「SSHv1」用の「ホスト鍵」を作成します。
作業は「root」権限アカウントにて、行ってください。

実行コマンド

```
# ssh-keygen -t rsa1 -f /etc/ssh/ssh_host_key
```

パスフレーズを聞いてきますが、「なし」で生成してください。

コマンドを実行しますと、「/etc/ssh」の下に「ssh_host_key」ファイルが生成されます。

- (2) 「/etc/ssh/sshd_config」ファイルを、エディタで開いて編集してください。
protocol 1,2 「protocol 2」を「protocol 1,2」へ変更します。

- (3) システムを「再起動」してください。

9-4-3 .「MAC OS X」システムのセットアップ

- ・MAC OS Xでは、初期設定にて「SSHv2」が有効となっております。
「SSHv2」をご利用の場合は、特にセットアップは、必要ありません。
- ・「SSHv1」をご利用される場合は、セットアップが必要です。

- (1) 「SSHv1」の設定及び、「SSHv1」用の「ホスト鍵」を作成します。
作業は「root」権限アカウントにて、行ってください。

実行コマンド

```
# ssh-keygen -t rsa1 -f /etc/ssh/ssh_host_key
```

パスフレーズを聞いてきますが、「なし」で生成してください。

コマンドを実行しますと、「/etc/ssh」の下に「ssh_host_key」ファイルが生成されます。

- (2) 「/etc/ssh/sshd_config」ファイルを、エディタで開いて編集してください。
protocol 1,2 「protocol 2」を「protocol 1,2」へ変更します。

- (3) システムを「再起動」してください。

10 . ハードウェアの仕様一覧

項目	仕様	
型名	Advanced NW board	
寸法	幅	100mm
	奥行	110mm
	高さ	25mm
	質量	0.07kg
消費電力	2.5W 以下	
環境条件	使用温度	0 ~ 55
	使用湿度	10 ~ 80% (ただし、結露なきこと)
	保管温度	-10 ~ 60
	保管湿度	10 ~ 80% (ただし、結露なきこと)

営業に関するお問合せ先

【本 社 UPS 営業グループ】

〒141-0031 東京都品川区西五反田7 - 2 5 - 5 ニッセイ五反田アネックス

TEL 03-5436-2780

<http://www.vutakadenki.jp> UPSSALES@po.vutakadenki.co.jp

【大阪営業所】

〒540-0036 大阪市中央区船越町1 - 3 - 4 ツリーモント宝永

TEL 06-6945-0818

製品のお取り扱い、メンテナンスやトラブルに関するお問合せ先

【UPS フィールドサービス】

〒368-0005 埼玉県秩父市大野原1 2 0 0 番地

TEL 0494-24-9321 , FAX 0494-24-6457

株式会社ユタカ電機製作所